

西脇市学校部活動地域移行検討会議の記録

会議等の名称	第1回西脇市学校部活動地域展開検討会議
開催日時	令和7年6月26日(木) 午後7時00分～午後8時50分
開催場所	西脇市役所大会議室(3階)
出席委員の氏名又は人数	12人
欠席委員の氏名又は人数	2人
出席職員の職・氏名又は人数	9人
公開・非公開の別	公開
非公開の理由	—
傍聴人の数	6人
議題又は協議事項	<ul style="list-style-type: none"> ・委員長及び副委員長の選出について ・国や市における学校部活動の地域移行等の動きについて ・意見交換
会議の記録(概要)	
発言者	
事務局	<p>《委員長、副委員長選出》</p> <p>委員長に森田啓之委員、副委員長に竹内友哉委員にお世話になりたい。</p> <p>(了承)</p>
委員	<p>《意見交換》</p> <p>部活動を卒部した3年生が、違う競技、例えば今まで野球をしてきた生徒が音楽をやりたいといった場合、もしくは複数したいと言った場合は、受け入れするということか。</p>
事務局	<p>7年度の実証事業については陸上競技と剣道と2つの種目での活動となる。部活動を卒部した3年生、当然陸上競技部を卒部した3年生、剣道部を卒部した3年生も参加できる。それ以外に、この2つの種目に限らず、全校生に募る。今までこれら2つの活動と違う部活動をしていた生徒も参加できる。複数種目の参加もできる。しかし、平日の学校部活動はあるので、そ</p>

委員	<p>の平日の活動に参加している生徒が別の種目に参加することで、例えば団体戦などに、どう影響が出てくるかという問題はある。</p> <p>実証事業に参加している生徒が、土日の大会には、学校に部活動があればその学校から出るとのことであった。実証事業ではあるが、引率はその学校の教員がするのか。</p>
事務局	<p>平日に部活動があれば、学校の活動として出場するため、学校の教員に引率していただくことになる。</p>
委員	<p>中体連の大会にクラブチームが参加しているが、この実証事業のチームが中体連の大会に参加できるのか。</p>
事務局	<p>現行の中体連の規定では、学校対抗の形で令和9年度までは開催するが、登録したクラブチームも出てくる。本市の場合は平日の学校部活動が存在しているので、中体連の大会には学校単位で登録し、学校単位で出場する。</p>
委員	<p>私は団体競技で指導している。学校で部活動の練習をし、土日は、地域クラブに入って、試合に出るのは学校部活動で、などというのは難しいのではないか。</p>
委員長	<p>この平日と休日というのを段階的にやる場合の、指導者同士の連携や協力関係も必要である。</p>
委員	<p>記録会などに行くときに、参加する学校、参加しない学校が出た場合について、どのような形で取り組んでいけばいいのか。記録会などには、ほとんど現地集合が多い。試合に参加すると審判を務めなければいけないが、顧問が来ていない学校の参加も認めてもらえるかどうかの確認等をしていかなければいけない。居残りがあった場合には、どのような形で指導するのか、課題として見えてきたところである。</p>
委員	<p>地域クラブ活動のみに所属している場合というのは、とても大きな課題だと思う。私の道場に例えてみると、今道場に来ている子どもたちや、学校の部活動に参加してない子どもたち、保護者が何を望むかということをいつも私は考えている。子どもによっては試合に出なくても、剣道を楽しみたい場合もある。武道という意味では、勝ち負けだけではないものを望む保護者も多数いる。それを保護者との話し合いの中でよく聞くようにしている。子どもたちにとって何がいいのか、</p>

	<p>保護者は何を望むのかというところを、コミュニケーションを取っていかないといけない。ただ受け入れる人や団体の量を求めるのではなくて、コミュニケーションを十分にとっているかが大事だと思う。</p> <p>受け入れ先を急いで作ってしまうと、いろいろな問題が出てくると思う。地域展開することによって起きている大きな課題や問題は、パワハラ等が実は多いそうである。西脇市が受け入れ先を頼むときに、十分にその道場やスポーツ協会に足を運んだりして、回数を重ねてほしい。</p> <p>私は保護者が来たときに、子どもにどのような剣道をさせたいか、保護者と十分話し合う時間を取っている。子どもたちが私の背中を見てどう感じるか。指導者の質というのはすごく大事だといつも思う。</p>
委員	<p>西脇市吹奏楽団で指揮者をしている。私も高校生のときに西脇市吹奏楽団に入っており、今、指揮者台の上に乗せてもらっている。やはり、文化、芸術、スポーツ活動の中で、その種目で育つ子どもが、次に指導者になるという回転をどれだけ作ることができるのかが大切だと思う。</p> <p>日本の吹奏楽のレベルや中学の部活動のレベルはすごく高い。しかし、コンクールの弊害があるとすれば、中学校3年間でいわば促成栽培しないといけないことである。持続可能なものにしていかないと、地域展開になったはいいが、指導者のローテーションがうまくいかずに、指導者の後継者がいなくなり、5年でなくなるということになれば、悲しく思う。</p>
委員長	<p>吹奏楽の話だが、これはスポーツにも通じる。多くの人が、促成栽培ということに耳が痛いと思われているのではないか。多くの日本の部活動は、こうした点を取り違えてきたことで、多くの弊害が生じた。この機会に、長いスパンでどのようにしていくのかについての議論をしつつ、少しずつ進めないといけない。大変な道のりだが、もう後戻りができないので、みんなで考える必要があることを理解いただけたらと思う。</p>
委員	<p>基本方針にある令和9年度まで、陸上競技に関する限り、顧問と私たちでやっていくことはできると思う。しかし、それ以降、平日も地域に移行する方針に</p>

事務局	<p>ついて、実際にそれが可能と考えているのか。</p> <p>平日も含め地域展開が何年度で完成するかという具体的な年度までは、今のところは決まっていない。ただ、できるだけ早い段階で、平日についても地域の方にお世話になりたいと考えている。</p>
委員	<p>平日では、学校が終わってから参加することになるが、移動の時間が必要である。また、屋外で行う活動には夜間照明が必要になるが、照明設備などは令和9年度が終わるぐらいのところでの設置を考えているのか。</p>
事務局	<p>平日に地域の方にお世話になるとすると、放課後の時間帯、午後3時や4時からの対応は、難しいと思っている。となると、平日であれば夜間に活動することも想定される。しかし、屋外競技でナイター設備があるところが西脇にそんなに多くはない。また、現在使われている団体との併用や競合も考えられる。平日の夜に屋外で、地域の方にお世話になるということになれば、施設整備の面でも検討は必要になるが、予算の制約があるので、できますとはなかなか申し上げにくい。</p>
委員	<p>そこを検討してもらわないと、移行しても何もできない。また、土日しかできない状況のままでは、保護者や子どもからかなり不満が出てくると思う。完全移行の段階では、ナイター設備の整備を考えてほしい。実際に平日に活動できるようになっても、設備がないなら、平日は学校で部活動として続けていくしかなく、完全移行はとてどもではないが無理である。</p>
教育長	<p>受け手側からすると、委員の言われた施設の問題や、夜に練習できないと平日は受けられないという話になる。様々な事情で、その種目について受け皿がないならば、家庭から地域にあるクラブにアクションを起こして、自分の子どもに合うか見極め、硬式野球クラブやサッカークラブに行かれているような例もすでに多い。同じ剣道でも、指導者によって考え方は異なる。そこをきちんと保護者が理解した上でないと、ミスマッチになっていろいろな課題が生じてくるのではないか。</p> <p>日曜日の学校の部活動をなくして、週末の引率や大</p>

事務局	<p>会の引率などをすべて地域指導者にお任せするようなことになったときに、引率などの負担ができるのか。複数の指導者で人数を確保しておかないと、安心してお任せすることは厳しいのではないかという意見もある。学校現場の考えや、施設関係、保護者のニーズなど、聞けば聞くほど考えてしまう。</p> <p>令和7年2月に策定した地域展開に関する基本方針に基づき、休日における全ての学校部活動をどのように地域に移行していくのかということを取り組んでいるところである。現在、既存の部活動に参加している子どもたちの受け皿が100%揃うのか、地域の団体や指導者にヒアリングをしているところである。これは中間報告として捉えていただきたいが、部活動と同じ種目の活動を地域で展開するための受け皿を確保することは、非常に厳しい状況である。一方、既存の部活動にはない種目ではあるが、手を挙げたいという声もある。基本方針に基づいて、既存の部活動から最優先で取り組んでいるが、半ば並行する形で、新たな地域クラブの立ち上げについても同時に動く必要があると考えている。また、指導の質の評価や、指導者の資格、質の担保、指導のあり方、あるいは学校との共有といったところもテーマとして図っていく必要がある。</p>
委員長	<p>令和9年度に向けて考えると、今の部活動の種目を経験したことのない子どもたちに、新しいものが出てきたら、絶対に選択の幅は広がるし、子どもの選択の傾向も変わると思う。部活動の種目は保証する必要もあるが、並行してやるべきだし、3年経って指導者が今までの部活動で見つからないということは、その種目の人材育成がうまくいっていないということである。どの種目協会もそれを突きつけられている。自分たちが関わる種目について、本当に純粋に愛する人たちがどれだけ育っているのかということはこの機会に考える必要がある。</p>
委員	<p>昨年第1回目から関わっているが、市の考えがどういった方向性で、まず何をして、どう動いていくのか。意見を聞いていて、まだ全然スタートできてないことや本当に難しいということをつくづく感じた。や</p>

<p>委員長</p>	<p>はり文化やスポーツを育てるには、時間をかけないとできないことばかりである。あと1年、2年の間に、保護者に、そして子どもたちに、部活動がどういう形で変わるのかを明るく言えるかが大切である。この会議に参加していると胸が苦しくなるぐらい悩む。子どもたちが今までの部活動と違うことに向かって、そこに入ったら、夢や楽しみ、青春をかけられるような場所になるのかどうかというのは、本当に今からの私たちにかかっているのではないか。やる気はあるし、子どもたちのためにやりたいという指導者もいると思う。部活動とは違う新しい活動が少しでも子どもたちの役に立つならば、という気持ちではある。</p> <p>令和8年の実証事業に、今出たようなことを少し入れていくことを検討してはどうか。ここで出た意見を最終決定するのは行政であるので、陸上競技と剣道に続く活動をどのようにするかというのはじっくり検討したらいいと思うし、募集をこれから広く展開していく上で、みんなに夢や展望が見られるような形の提案が必要であると感じた。</p>
<p>委員</p>	<p>国の方針に従って、地域展開をせざるを得ない状況にあるが、落とし穴ではないかと思うところがある。例えば、令和9年半ばから休日の全ての部活動を地域クラブ活動に移行するとあるが、受け皿側の年齢は考えているのか。本当に活動的にできる人は、子どもたちが技術の向上などを望むなら、30代、40代、50代だとは思う。しかし、その年代の人は働き盛りで、受け皿になれるのかは疑問である。市としては、受ける側の年齢等を計画の中に見込んでいるのか疑問に思う。</p> <p>私どもの剣道に関して言うならば、地域展開が決まったときに、これは私たちにとってチャンスとして受けようという思いを持っていた。地域展開が行われることにより、私も下の者を育てないといけない。教え子の大学生たちに相談すると「僕たちも手伝います」と言ってくれた。多分、これが地域に移行することの良いことの1つかなと思う。これをチャンスに自分の後継者も育てていきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>今までの価値観が通用せず、未知の領域に入っていると思う。今の部活動を窮屈に感じている子どもがい</p>

	<p>るかもしれないし、ネガティブに考えている親がいるかもしれない。今回新たに別の領域の形になるというところでは、これらの人たちの声をデザインの中に入れていかないといけないと思う。こぼれていた子どもたちの選択肢というところのチャンスにも繋がっていくと思う。競技志向がメインではなくて、体験や趣味といったニーズの方が実際多いかもしれないということも、まだまだ見えてない。本当は、今の子どもたちが現状の部活動に対して何を考えているのか、どう感じているのか、親も含めて意見を聞く場を一度設定してもいいと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>私は野球部をずっと見てきた。当時は、勝って初めてやってきたことが報われ、負けるとやってきたことが足りなかったと言われてしまう世代だった。保護者のほとんどが結果を求め、結果を出した顧問が素晴らしいという雰囲気があった。これからの時代は、保護者や教員も考え方を新たに変わっていかないといけないのではないか。今の若い教員には昔と同じような関わり方を求めたくないし、家庭も大事してほしいという思いもある。</p>
<p>委員</p>	<p>まず、量のところで、部活動の地域展開に行くまでの令和7年、8年、9年の平日の部活動をどのように運営していくか。教員だけでは指導がカバーしきれずに、管理職や部活動指導員に頼んでなんとか運営している状況である。依頼する方も73歳であったり、再任用教員も64歳であったりという中で運営している。新任の教員に、自分が経験したことのない部活動をやらせようということもある。特に、令和9年度の休日に地域クラブへの完全移行が始まった場合、地域クラブに入れなかった子どもがいるとすれば、教員が部活動を持ってくれるか、また、その存続をどうするか、どのような運営をしていけばいいのかといった部分について、皆さんと議論したいと思った。</p> <p>また、YouTubeなどいろいろなものを見て子どもたちは多種多様な興味を持っている。既存の活動を軸に据えつつ、子どもや保護者のニーズも聞きながら進めていくことが、中期的あるいは長期的に見るといいのかなと感じた。</p>

委員長	本日は、いろんな角度から、温かくも厳しい意見をいただいた。事務局で、本日の意見を具体的に落とし込んでほしい。
事務局	《今後の予定》 次回7月31日(木)19時、この会場で予定する。実証事業が始まる前の状況を報告する。
問合せ先	生涯学習課（内線4050）